

**基
本
構
想**

第1章 計画策定の目的と経緯

第2章 計画の位置づけと期間

第3章 生涯学習の定義

第4章 生涯学習推進の意義

第5章 生涯学習推進施策の基本的視点

第6章 吹田市の特長と行政の役割

第7章 これからの生涯学習

1 計画の目的

第3次吹田市生涯学習（楽習）推進計画は、市民の様々な生涯学習活動を支援することを目的とし、「学んだ後の活動の場の提供」、「現代的課題に応じた講座の提供」、「スポーツを取り入れた学習」などの項目を新たに盛り込みながら「いつでも、どこでも、だれでも」生涯学習活動に取り組める環境づくりを整えます。

2 これまでの計画

吹田市生涯学習推進計画につきましては、生涯学習の^{まち}づくりをめざし施策の方向を明らかにするため、平成7年(1995年)10月に策定しました。

その後、吹田市生涯学習推進計画の策定から10年を経て、社会情勢の変化から学習意欲の高まりや、学習のニーズの多様化、専門化などが進み、これらの変化に対応するため、学んだ人が学習の受け手にとどまらず社会の創り手としてその成果を社会に発信することの支援などを盛り込み、第2次吹田市生涯学習推進計画を平成18年(2006年)3月に策定しました。第2次吹田市生涯学習推進計画では、「緊密な連携・協働による推進体制づくり」「生涯学習推進のための基盤整備」「広範な学習機会づくり」の施策体系に基づき、取組を進めてきました。

3 生涯学習に関する答申や法律の改正

第3次吹田市生涯学習（楽習）推進計画を策定にするにあたっての主な背景としては、第2次生涯学習推進計画策定後に、生涯学習に関する答申や法律の改正がありました。

平成18年(2006年)12月の教育基本法改正では、第3条で生涯学習の理念を「国民一人一人が、自己の人格を磨き、豊かな人生を送ることができるよう、その生涯に

わたって、あらゆる機会に、あらゆる場所において学習することができ、その成果を適切に生かすことのできる社会の実現が図られなければならない」と定義されました。

平成20年(2008年)2月には中央教育審議会から、「新しい時代を切り拓く生涯学習の振興方策について～知の循環型社会の構築を目指して～」という答申が出され、この答申では、「国民一人一人の生涯を通じた学習の支援」や「社会全体の教育力の向上」という施策の方向性と具体的な方策について示されました。

更に平成20年(2008年)6月には社会教育法の改正により、第3条第2項に、国及び地方公共団体の任務として「国民の学習に対する多様な需要を踏まえ、これに適切に対応するために必要な学習の機会の提供及びその奨励を行うことにより、生涯学習の振興に寄与することとなるよう努めるものとする」という内容も示されるなど、生涯学習を取り巻く環境は変化をとげています。

4 第3次計画を策定するに向けての方針

次に、計画の進行管理を行う中での課題に対応する生涯学習施策の方針を示す必要があります。具体的には、第2次生涯学習推進計画策定以降の機構改革、特に平成24年度(2012年度)の機構改革によって中央公民館を生涯学習課に統合し、生涯学習推進本部事務局である生涯学習課において、地区公民館を所管することとなり、より事務局と施設が連携できる体制になったことがあげられます。第2次生涯学習推進計画において取り組んできた事業をより効果的に展開できるように、第3次生涯学習(楽習)推進計画においては、施設整備などのハード面のみならず情報の収集や発信及び相談業務などのソフト面を充実できるよう今後の生涯学習施策の方針を示し、その推進を図ります。

これらの背景を踏まえ、将来的な視点や中長期的な施策を盛り込みながら、第3次吹田市生涯学習(楽習)推進計画を策定するものです。

1 計画の位置づけ

本計画は、吹田市の総合計画における将来像の実現に向けて、生涯学習の推進についての部門別計画として位置づけます。また、教育委員会が策定している「わが都市（まち）すいたの教育ビジョン」など関連する計画と整合性を図り、策定しています。

2 計画の期間

平成28年度（2016年度）から平成37年度（2025年度）とします。

なお、本計画は、その進捗状況を毎年、調査・把握しながら、吹田市の総合計画の見直しや策定の際に、必要に応じて見直しを行うものとします。



1 生涯学習とは

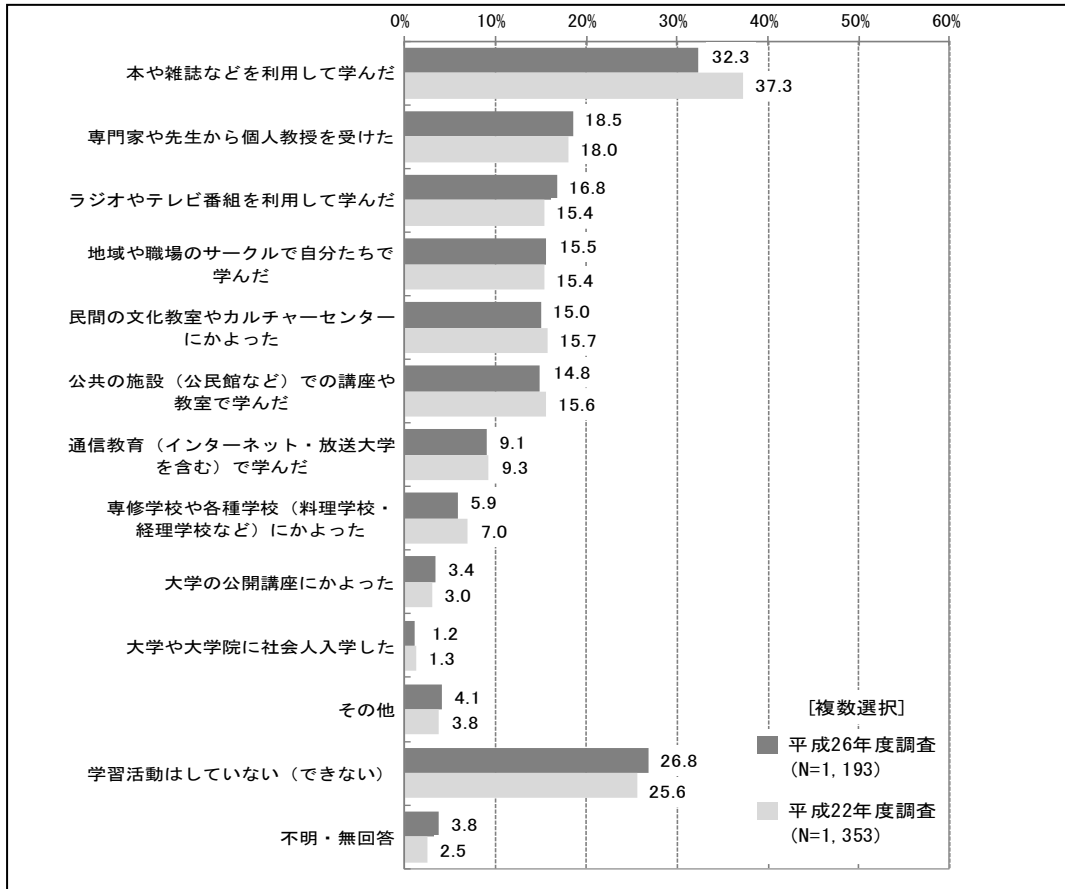
生涯学習は、市民一人ひとりが、それぞれに適した手段・方法で、主体的に生涯のあらゆる時期を通じて行う様々な学習をいい、それを通じて豊かで生きがいのある充実した生活の創造をめざすものです。

また、学んだ人が、学習の「受け手」にとどまらず、社会の「創り手」としてその成果を社会に広げ発信し、還元していく過程も生涯学習であるといえます。それは、「学び手」としてだけでなく「教え手」になる過程でも人は様々なことを学んでいるからです。

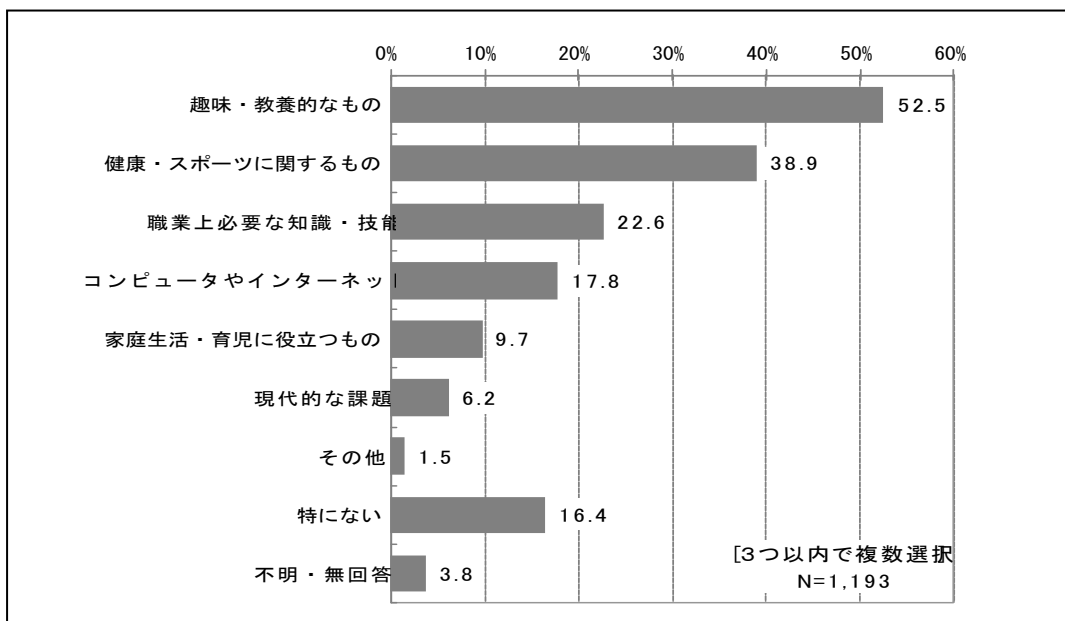
2 様々な生涯学習活動

生涯学習には、社会教育、学校教育、企業内教育、職業教育・訓練、カルチャーセンターなどの場において行われる意図的な学習のみならず、スポーツによる健康づくりや読書活動、芸術・文化活動、コミュニティ活動、ボランティア活動などのような、必ずしも学習というかたちでは意識されていないけれども自主的に行われている活動、さらには、日常経験やまわりの環境（人、もの、自然など）とふれあう中で偶然何かを学ぶといった、学習として意識せずに行っている学習まで、広範囲のものが含まれます。

あなたは、これまでに何らかの学習活動（趣味や体験活動、運動・スポーツ等も含む）をするのに、どのような方法で行いましたか。（複数回答）



あなたが今後、学習したいのはどのような内容ですか。（複数回答）



平成26年度（2014年度）吹田市市民意識調査

1 高まる生涯学習の必要性

現代の社会は、平均寿命の上昇、少子高齢化の進行、国際化、高度情報化などにより、人々の価値観やライフスタイルも大きく変化し、自発的かつ主体的に学習する生涯学習は、その必要性・重要性が増々高まっています。

2 現代的課題に対応した学習

自らが健康で心豊かな充実した生活・人生を過ごすためには、一人ひとりが意欲をもって学習を実践していくことが大切です。いろいろな知識や技能を身につけ、教養を高め、その学びを繰り返すことにより、それらの目的は達成できると考えます。

一方、近年では猛暑や集中豪雨など、地球規模での環境の変化が進んでいます。今後発生が予測される震災などの様々な災害に備えるための、防災・安全に対する学習意欲も年々高まっています。社会全体で解決しなければならない課題である防災対策、情報化、人権、男女共同参画、国際理解、少子高齢化、環境問題などの現代的課題[※]に対応した学習により、複雑化した現代を生き抜く力をつけることも生涯学習の持つ重要な役割の一つであります。

※ 現代的課題とは

平成4年(1992年)の国の生涯学習審議会答申「今後の社会の動向に対応した生涯学習の振興方策について」において、「現代的課題とは、社会の急激な変化に対応し、人間性豊かな生活を営むために、人々が学習する必要のある課題である」と示されており、情報の活用、人権、男女共同参画型社会、国際理解、高齢化社会、環境などが挙げられています。

近年、これらに加え防災対策、少子化問題なども現代的課題として取り上げられています。

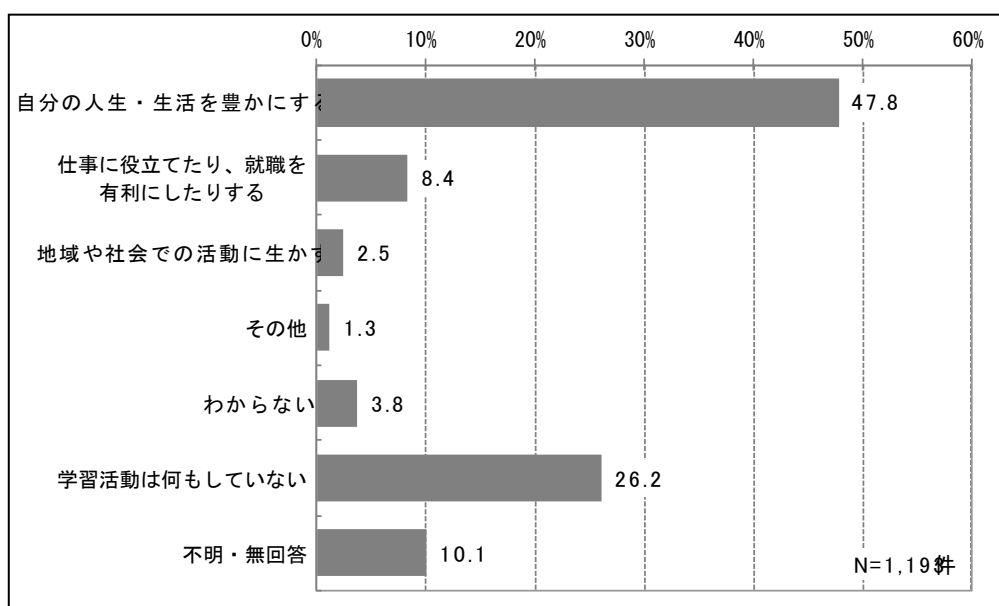
3 スポーツを取り入れた学習の推進

スポーツの推進は、体力の向上や生きがいの創出など、心身の健康づくりに効果的であるとともに、スポーツを通じたコミュニティの形成も期待できます。また、健康寿命の延伸や子どもの低体力化の解消などに対応するためにも、スポーツを取り入れた学習の推進が必要です。

4 循環型の生涯学習

学んだ成果を、ボランティア活動やまちづくり活動などに生かすことによって、地域に対して関心やつながりも深まり、コミュニティの活性化にもつながります。学習と様々なまちづくりの取組とが結びつくことで、よりよいまちづくりにつながっていくことにもなります。このような学習した成果が社会活動に生かされ、次の新たな学びや活動へと結びつく循環型の生涯学習社会の実現が必要です。

学習活動を通じて身につけた知識・経験をどのように生かしていこうと思いますか。



平成26年度（2014年度）吹田市市民意識調査

生涯学習の推進施策は、次に掲げる基本的視点を考慮して策定することとします。

- 生涯学習の推進施策は、「人権尊重」の視点を基本とし、「すべての市民」の生涯学習活動を支援します。
- 市は「いつでも、どこでも、だれでも」、生涯学習活動ができるように、すでにある施設や設備、学習機会、情報、人材などの資源をより生かすための全庁的な「体制づくり」を行います。
- 学んだ人がその学習成果を社会に還元し、循環できるよう「学んだ後の活動の場の提供」を図ります。
- 複雑化した現代社会を生き抜く力をつけることが生涯学習の意義であることを明らかにし、これを実現するために防災対策、情報化、人権、男女共同参画、国際理解、少子高齢化、環境問題といった現代的課題に即した講座の提供を図ります。
- 生涯学習の意義として、芸術・文化活動やコミュニティ活動等を通じて、人と人あるいは人と地域がつながり生きがいを創出することに加え、スポーツの観点も取り入れ、すべての市民がスポーツと健康づくりに取り組めるような環境づくりも進めます。

1 吹田市の特長的な学習資源

吹田市には5大学・1研究機関があり、それぞれの機関で公開講座などの市民を対象とした学習機会が提供されています。これらは高等教育・研究機関として専門的な学習資源を有しており、これらと連携することで市民の生涯学習活動をより豊かなものとすることができます。また、吹田市にはこれらの大学に在学する多くの学生が居住しており、クラブ・サークルを通じた多様な活動を行っています。こうした学生の活動と連携することで、生涯学習活動の場に若年層を巻き込むとともに市民の学習機会の創造にもつながることが考えられます。以上のように高等教育・研究機関との連携は、吹田市の生涯学習推進施策の一つの特長として展望できるものと言えます。

もう一つの特長として、市内29か所に設置した地区公民館を挙げることができます。地区公民館は多くの市民が自宅から気軽に訪れることのできる場所に設置している施設であり、日常的な生涯学習活動の場として中心的な役割を果たすことができます。また、体育館など市内の他施設との連携を深めることで地区公民館の機能を充実させ、これを地域の学習の拠点としてさらに有効に活用することは、市民一人ひとりに開かれた生涯学習の基盤整備のための重要な課題です。

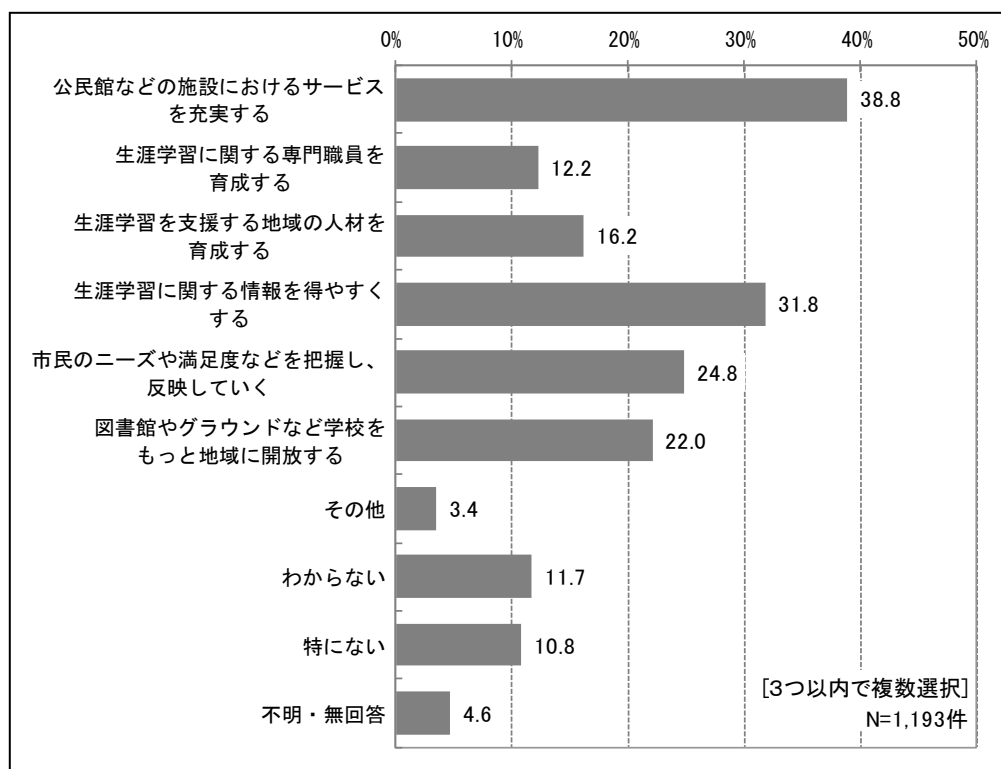
2 生涯学習推進のための行政の役割

生涯学習推進のための行政の役割は、市民が自由に学習を発展させることを支援し、そのための基盤整備を行うことが中心となり、その支援はすべての市民に対して開かれている必要があります。生涯学習活動の基盤整備としては、二つの重要な課題①学習の場と機会をだれもが利用できるように整備すること、②必要な学習情報を集積・発信するための情報ネットワークを整備することがあります。

吹田市においては、学校や公民館、コミュニティセンター、図書館、スポーツ施設など生涯学習施設は充実していますが、生涯学習活動にかかわる情報が、それを必要とする人々に十分に届いていない可能性もあります。情報提供を更に充実させていくためには、施設間の連携を進めるとともにインターネットを活用するなど、生涯学習活動に関する情報ネットワークの整備を進めることにより、人々の情報の選択の幅を広げ、すべての人が自由に生き生きと生涯学習活動を行える環境を整えることが可能となります。

また、生涯学習に関する情報の収集や発信に加え、相談機能を充実していくこと、様々な現代的課題（例えば、防災対策、情報化、人権、男女共同参画、国際理解、少子高齢化、環境問題など）に関する幅広い学習機会を提供することが行政の重要な役割です。生涯学習推進施策はこれらをふまえて計画する必要があります。

生涯学習を盛んにしていくために市はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。（複数回答）



平成26年度（2014年度）吹田市市民意識調査

近年の高度情報化、国際化、少子高齢化などによる急速な社会変化の進展は、人々の生活様式に様々な影響を及ぼしています。人々の価値観やライフスタイルが多様化するとともに情報の収集が容易になり、その活用能力も急速に向上するにともない、この変化する社会に適応していくための学習へのニーズは年々増大しています。

このような近年の生活環境の変化にともない、人々の暮らしは大きく変化し、快適で便利な環境が整う一方、防災対策、情報化、人権、男女共同参画、国際理解、少子高齢化、環境問題などの現代的課題も多様化しています。複雑化した現代を生き抜く力をつけることが生涯学習の意義であり、そのための講座や情報の提供も必要となります。

また、芸術・文化活動やコミュニティ活動等を通じて、人と人あるいは人と地域がつながり生きがいを創出することに加え、運動やスポーツについても、心身の健康づくりにとどまらず、世代を超えてのコミュニティを形成することが可能です。運動やスポーツを生涯学習の重要な要素として取り入れ、「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツに親しめる環境づくりを生涯学習の役割の一つとして施策を進めていきます。